



寒空の下、スケートリンクでは、子どもたちがスケートに勤しむ姿が見られます。ウィンターシーズン真っ盛り。今号では、昨日開催しましたスクールバス運営委員会の様子などを中心にお伝えしていきます。

スクールバス運営委員会より

過日（1月19日）、第2回大正地区スクールバス運営委員会を開催しました。早朝より、帯広市教育委員会の村木学校教育課長をはじめ学校教育課のみなさん、毎日交通から有坂さん、運営委員の方々のご出席をいただきました。誠にありがとうございました。

会に先立つスクールバスの試乗では、生憎の降雪により普段とは異なる走行状況や車内の子ども達の様子、シートベルトの着用状況等を確認していただきました。刻一刻と変わりゆく路面状況などに即応して、子どもたちが安全に安心して登下校できる環境を整えることが本運営委員会の責務であるとの思いで開催しています。皆様からいただいた意見や要望を目に見える形で生かしていきます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

1号車から4号車・愛国線では、各地区連絡員の方を中心に路面状況等の情報をいただくことになっておりますが、すべてを掌握することは困難です。お気づきの際は、学校（教頭）までお知らせいただくと大変助かります。

会合でだされたことをお伝えします

ここで、参加された方々からいただいた意見、感想等を紹介します（おもなものは次の5点です）。

① シートベルトの着用について



ドライバー、ガイドの継続した声かけ等により、シートベルトの着用状況は習慣化されています。『自分の命は自分で守る』、車に乗ったら、まずシートベルトを締める。ご家庭でも折に触れ話題としていただくと大変助かります。

② 降車直後の横断について

スクールバス降車直後の横断にはくれぐれも注意が必要です。



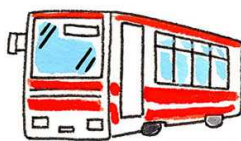
朝の登校時はもちろんのこと、下校時は、日没も早く薄暗い状態になります。十勝管内でも事

故に巻き込まれるケースも発生しています。特にバスの後方からの横断は、左右の見通しがきかず、対向車の確認も正確にはできません。

降車時の左右の安全確認等の声掛けをご家庭でもお願いします。

③ バス内での過ごし方について

降雪により、バスのステップ（乗降車口）が大変滑りやすくなっています。また、バス内も解けた雪などで滑りやすい状態になっています。バスに乗車する際は、靴底についた雪などをしっかりと落としてから乗車するなど車内の環境も整えていく必要があります。



④ あいさつの大切さ



気持ちのよいあいさつで1日をスタートさせたいですね。『おはようございます』（元気に明るく気持ちよく）、『ありがとうございます』（感謝の気持ちをこめて）など時と場に応じたあいさつは、人と人をつなぐ架け橋となります。

今後も大正っ子には、あいさつの大切さや必要性を語り続けていきます。ご家庭でも積極的な声掛けをお願いします。

⑤ 1号車の路線変更について

スクールバスの路線を策定する際に、配慮しなければならないことの一つに、スクールバスの切り返し（スイッチターン）を極力少なくし、スムーズに安全に運行することがあげられます。今回、運営委員の皆さんより“1号車の転回場所のスペースが十分ではないこと、脱輪等が危惧されること”などの理由から年度途中ではありますが、これまでの運行路線を見直し、2月2日を目途により安全に安心して運行できるようにしていきたいと考えています。1号車を利用する皆さんには、諸条件が整いましたら、あらためてお知らせします。よろしくをお願いします。

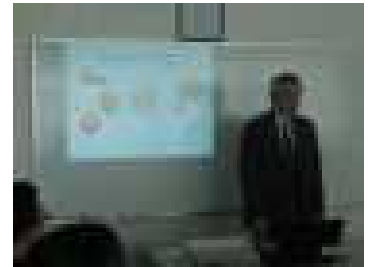
職員研修より～ アレルギーについて理解を深めました～



エピペンの使用方法についての説明



過日（1月17日）、本校の学校薬剤師で音更宏明館病院に勤務されている吉田 和史さんを講師にお招きし、アレルギー全般についてのお話とアナフィラキシーショック時の対処法として『エピペン』（左）の使用法を教えてくださいました。



講師の吉田和史 薬剤師

アレルギーとは、異物から人の体をまもるための仕組みである「免疫」が過剰に働くことによって、かゆみ、くしゃみ、炎症などのさまざまな症状を引き起こす状態をさすそうです。アレルギーを引き起こす原因(アレルゲン)は様々で、最も多いのが食物、ついで昆虫などの毒が体内に入ること、そして薬などとなっています(運動やラテックス【天然ゴム手袋】などでも起きることがあるそうです)。



エピペン(試行品)を試す職員

特に重篤なものは、アナフィラキシーと呼ばれ、短時間に全身にあらわれる激しい急性のアレルギー反応で生命を脅かす危険な状態になることがあるそうです。

アナフィラキシーがあらわれた時に使用し、医師の治療を受けるまでの間、症状の進行を一時的に緩和し、ショックを防ぐための補助治療薬(アドレナリン自己注射薬)がエピペンです。ただし、市販されるものではなく、医師の診断により処方されるそうです。

● アナフィラキシーを引き起こす主な原因(アレルゲン)

食べものを食べる
(卵、牛乳、小麦、そば、ピーナッツ など)

昆虫に刺されて、毒などが体内に入る
(スズメバチ、アシナガバチ、ミツバチ など)

薬を飲む、注射する、塗る
(抗生物質、解熱鎮痛剤、ワクチン、麻酔薬 など)

※そのほか、ラテックス(天然ゴム手袋)や運動でも、アナフィラキシーを引き起こすことがあります。

アナフィラキシーは、アナフィラキシー・ショックに至り、生命を脅かす危険な状態になることがあります。

アナフィラキシーにはさまざまな症状がみられます。さらに、症状が急激に変化し、場合によっては、初期の症状があらわれてから数分後に、「アナフィラキシー・ショック」とよばれる、血圧が低下し意識障害などのショック症状を引き起こし、生命を脅かす危険な状態になってしまうため十分な注意が必要です。

● アナフィラキシーの主な症状

	自覚症状	他覚症状
全身症状	不安感、無力感	冷汗
循環器症状	動悸、胸が苦しくなる	血圧低下、脈拍が弱くなる、チアノーゼ
呼吸器症状	鼻がつまる、喉や胸が締めつけられる	くしゃみ、咳、発作、呼吸困難、呼吸音がゼーゼー、ヒューヒューとなる
消化器症状	吐き気、嘔吐、口の中に異物を感じる、便意や尿意をもよほす、お腹がゴロゴロする	嘔吐、下痢、糞便、尿失禁
粘膜・皮膚症状	皮膚のかゆみ	皮膚が白あるいは赤くなる、じん麻疹、まぶたの腫れ、口の中の腫れ
神経症状	くちびるのしびれ感、手足のしびれ感、耳鳴り、めまい、目の前が暗くなる	けいれん、意識障害

● アナフィラキシー・ショック

アナフィラキシー・ショックは、生命を脅かす危険な状態です

帯広市では平成27年度より、学校給食センターが移転新築されたのに伴い、食物アレルギーの対応をこれまでよりも、より細かに進めています。

また、食物アレルギーだけでなく、本校周辺ではスズメバチが多くみられるなど、様々な視点からアレルギー(アナフィラキシー)を見つめ直すことは必要なことだと考えます。知っていることで、もしもの時の対応の幅は広がります。有事の際には救急車を要請したり、AEDを使用したりすることが想定されます。起こって欲しくないことではありますが、出来る準備だけは整えておきたい。今回の研修が教えてくれました。

※上の図は研修会でいただいた資料の一部です。

～ 以下は、職員の感想です～

- 難しい言葉もあり、わかりづらい部分もありましたが、アレルギーの子どもに対する対応の仕方がよくわかりました。もし、そのような場面があったら躊躇することなくエピペンを使います。
- この研修は2回目ですが、忘れていたことも多く勉強になりました。エピペンは、いざ打つとなると、かなりドキドキになってしまうと思います。数年に1度は、この研修があるといいですね。
- 説明がわかりやすく、色々な質問にも親切に答えていただいて、とても勉強になりました。薬剤師の立場でのお話も興味深く聞かせていただきました。ありがとうございました。
- エピペンの使い方があらためて確認できました。また、きちんと処方されているものであると認識を深めることができました。
- 普段から学習して仕組みを理解すること、ショックが起きてしまっても遅いので、①一人で判断しない、②迷わない、とういことが大切であることがよくわかりました。ありがとうございました。
- エピペンは家庭から持参しているものだけ使用し、子どもが打てない時に教員が替わって打てるということを知りました。そのため、医者から処方されているピペンのみ使用し、初めてショック症状が出た子どもについては、119番通報と保護者への連絡、保健室で救急車が来るまで安静にしていることが大切であると思いました。